

☆名張市立名張中学校区の取組

◆事業概要

1 中学校区の現状と課題

名張中学校区では、経済状況の不安定さや、人と人のかかわりが希薄になることで、ゆとりのない不安定な生活を余儀なくされている家庭が増加する傾向にあります。また、厳しい家庭環境の中で不安やストレスを抱え、自分を大切に思う気持ち（自尊感情）や、自分がだれかの役に立っていると思う気持ち（自己有用感）が高められずにいる子どもたちも増加傾向にあります。このことは、学習意欲の低さや将来の展望を持っていないことにつながっています。

このような課題を受けて、子ども支援ネットワークでは、自尊感情や自己有用感を高め、子どもたちが将来への展望を描き、学習意欲が高められよう取組を進めました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 校区住民が子どもたちと一緒に進める人権学習

「いつもとなりに」～癒し系バンド「ゆりね」によるコンサート～

自尊感情が低い子どもたちや、相手を傷つけてしまう言葉が出てしまう子どもたちが、「命」の大切さと「自分」や「家族」の大切さを感じられるよう、地域住民で構成された、癒し系バンド「ゆりね」のコンサートを行いました。



コンサートの様子

メンバーの語りから

- ・どの子も大切。はじめは知らない子でも、つながろうと思っているうちに、やっぱり「大切な子」になる。「ダメな子」なんていない。
- ・入院している同級生が「会いたい」というので会いに行った。そのあと残念ながら亡くなってしまって、死を深く考えるようになった。「死ね」とか「うざい」って、言葉を絶対に使わないで。
- ・「ふるさと」って誰にとっても大切なところ。その「ふるさと」をバカにしたり、差別したりする人がいることが許せない。バカにされていい人もいない。差別されていい人もいない。

(2) 「校区でがんばる人」訪問

将来の展望が持てない子どもたちや、仕事をすることにあまり関心がもてない子どもたちが、働くことの素晴らしさやキャリアビジョンを持つように、「校区でがんばる人」を訪問しました。地域住民が、仕事の話をしたり実際に活動を紹介したりして、多くの子どもたちは、多様な人々に出会い、将来の自分の姿や生き方を描けるようになりました。



訪問時の様子

(3) 「校区を美しく！」ボランティア活動

名張中学校の生徒会が「校外ボランティアクリーン」を企画立案し、生徒総会でボランティアを呼びかけ、学校周辺地域の環境美化活動に取り組みました。子ども支援ネットワーク委員会の声掛けが、多くの住民の見守りや、声かけにつながり、子どもたちは、成就感とともに自己有用感をもつことができました。

今年度は、中学校区全体の活動に広げていこうと、小学校と中学校が連携・協働し、中学生が出身小学校区に出かけ、小学生や地域の方とともに活動する地域の環境美化活動を行います。小学生にとって、中学生が「あんな中学生になりたい。」というモデルとなり、中学生にとっては、さらに自尊感情と自己有用感を高める取組をめざしています。



ボランティア活動の様子

◆実践を振り返って

自尊感情や自己有用感、学習意欲を高めるため、中学校区では紹介した活動以外にも様々な活動に取り組みました。取組を通して少しずつではありますが、学校へ行くのが楽しいと思える子が増えたり、自分の将来の展望を持てる子が増えたり、学習に積極的に取り組めるようになったりと、効果があらわれています。

今後も引き続き、子どもたちの自己実現のために、取組を工夫しながら進めていきたいと考えます。